

議長定例記者会見 会見録

日時：平成30年8月3日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 三重県議会インターンシップ実習生の決定について
- みえ高校生県議会の開催について

2 質疑項目

- 三重県議会インターンシップ実習生の決定について
- みえ高校生県議会の開催について
- インターハイ総合開会式について
- LGBT 対応について
- 旅費について

1 発表事項

- 三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(議長)おはようございます。ただ今から、8月の議長定例記者会見を開催させていただきます。

本日は、2つの発表事項についてでございますが、まず1点目についてでございますが、三重県議会インターンシップ実習生の決定について、発表させていただきたいと思っております。

お手元の資料をご覧ください。

受入れを決定した実習生につきましては、

いけしょうじ たけひこ

京都大学大学院公共政策教育部の池庄司 赴彦さん、23歳の男性でございます。

実習期間につきましては、9月11日の火曜日から21日の金曜日までの8日間とするところであります。

実習内容につきましては、県議会の取組及び業務内容の聴き取り、委員会及び本会議の傍聴、議員との対話・交流を通して意見発表などを予定しているところであります。

実習生につきましては、今回の実習を通して、地方議会への理解を深めていただくとともに、今後のキャリア形成にもつなげていただければと考えておるところであります。

なお、実習生の受入式につきましては、9月11日の火曜日の14時30分

から議事堂3階議長応接室で行う予定でございます。取材などをしていただければ幸いです。よろしく申し上げます。

○みえ高校生県議会の開催について

(議長) 次に、2つ目の発表事項ですが、みえ高校生県議会の開催について、発表させていただきます。

具体的な内容につきましては、広聴広報会議の座長である前野副議長から説明させていただきます。

(副議長) それでは、おはようございます。ご苦労様でございます。私の方から、みえ高校生県議会の開催について、ご説明いたします。

お手元に資料がございますのでご覧いただきたいと思います。

この取組は、広聴広報活動の一環として、高校生に議会活動を体験してもらうことで議会に対する関心を高めていただくとともに、高校生の意見を直接聴くことで議会での議論に反映をしていくことを目的といたしております。今回で3回目となります。

日時は8月の21日火曜日、午前11時40分から、場所は本県議会議事堂でございます。

参加者は、資料別紙に記載の県内の高等学校11校に通う生徒40名と、県議会議員14名、知事、教育長、環境生活部長にお願いをしております。

当日は各校の生徒が議員役となって資料別紙に掲げた質問を行い、答弁は所管の常任委員長が行うこととしております。また、そのうち3名の生徒さんにつきましては交代で議長役を経験していただくことにしております。

その他のところですが、みえ高校生県議会は公開といたしてありまして、一般の方も傍聴できますし、また、インターネットによる生中継、手話通訳付きでございますが、録画配信、手話通訳付きでこれも行う予定でおります。

報道機関の皆様方におかれましては、事前の情報発信や当日の取材につきまして、何卒ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長) 本日の発表事項は以上であります。

2 質疑応答

○三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(質問) 前回同じこと聞いたんですけど、前回聞いた時、議長ご自身も公共政策大学院とはどういうところなのかあまりご理解が十分でないという印象を私受けたんですけども、少なくとも、公共政策大学院に絞るというのは、対象を、今の時代の現状には合わないかと改めて思うんですが、そのあたり如何でし

ようか。

(議長) はい。前回もご意見いただいております。基本は今の現状を踏まえた中で対象者としては適しておるのかなという認識はしておりますが、応募状況からいきましても各大学に意見聴き取りをしておる中で、他のインターンシップがあるとか、公共大学院生は対象者が非常に少ないという意見がある中で、今年はまだ決定をさせて頂いたところでありますが、次年度以降の中で整理等も含めながら少し分野を、広げた中で検討もさせて頂きたいなと思うところであります。

(質問) ま、あえて公共政策大学院というふれこみで募集されたので敢えて聞かせてもらいますけれども、私、ちょっと大学院を取材したこともあったんですけども、法科大学院と2つこの独立大学院は、はっきりいってアメリカの制度そのまま持ってきたもので日本の教育制度の中で行政等との関わりの中で、どちらも上手くいかなかったと。専門大学院であるという評価が今の教育政策の中で教育に関する大学研究者であるとかの中では言われている評価とかあると思いますけど、そういうことはあまり県議会の募集に反映してないんじゃないかなと。そういう公共政策大学院に絞って10年以上も、10年近くも続けているというのは世間の事情を考慮されないままのこの仕組みを続けてきたんじゃないかなという印象を前回も非常に受けたんですけどその辺は如何でしょうか。

(議長) 従来、ある程度公共政策大学院生の中で応募を頂いておりましたし、いろんな意見交換をさせて頂く、あるいはその大学院生の意見を議会の方でも配付もさせて頂いたという経緯の中でそれなりの効果が私にはあったのではないかなと思っています。ただ、今年も募集生も少なかったという状況の中で少し、枠を広げるべく、例えば、政治学系や社会科学等々も含めながらどういった分野に広げていくのが適しているのかも含めて検討していきたいと思えます。

(質問) 何人の応募があったんですかね。

(議長) 応募は1名の方が応募をいただいて決定させて頂いたところです。

(質問) この方どんな研究をしていて、どんなことに興味を持っておられるとおっしゃってましたか。

(議長) ご本人さんの応募する理由について応募頂いた理由についてでございますが、ちょっと長文ですので割愛をさせて頂くと、日本の危機管理防災安全保障治安対策等日本の安全を維持するための政策分野に関心を有してきましたということの中で地方議会としても県議会を通じながらそういった活動、条例の制定等々を含めて防災や危機管理にいかなる影響を与えているのかというようなことをインターンシップを通じながら勉強をしていきたいという応募の理由を記載いただいております。

○みえ高校生県議会の開催について

(質問) 何個かの田舎の町で同じような企画取材したことがあるんですけど、割と答える側も子どもさんが父親役とか町長役も子どもさんがやって楽しく議会とか地方自治の役割を勉強されてるような取材をしたことがあるんですけど、答える側は議員さんの方がいいですか。

(副議長) そうですね。県議会がやる、高校生県議会ですので、当然、県議会議員がどんなふうに関わっていくかということで今回も設定はしております、質問の内容だとか答える方もですね、議員の勉強してきている能力を十分発揮できる、そんな勉強も兼ねて議員が答えるというほうがいいんじゃないかと思っています。

(質問) 例年の内容と異なることはありますか。前回と違う、今年新しいこととか。

(副議長) 特にあの、目新しいということはありませんけれども、あの、事前交流会と、また、後の交流会を前回と変わる内容としてはやっております、事前交流会をやったということは、その、各学校に議員がお邪魔をして、あらかじめ質問内容を聞き取りもさせていただいて、なるべく、より深く掘り込んだ質問が高校生の方にやっていただけるようなアドバイスなんかもさせていただいて、そして取り組んできましたんで、前回と違うところは、その辺が、かなり濃密な議論ができる体制が整ったのかな、と、そんな風に思っています。

(質問) その作業は、これまで事務局がしてきたんですか。議員さんが調整されたのか。

(事務局) そうですね、あの、すいません事務局からよろしいですか。もちろん学校との調整等は事務局が関わっておりますけれども、事前交流会という形で設けたのは、今回新しい取り組みになります。

(質問) これまあ、質問項目についてこう詳しく聞いたりとか、調整していくようなものなんですか。そういうわけではない？

(副議長) あの、大体あの、レクチャーに近いような、あの、高校生全部ここへ集まっていたきまして、質問をそれぞれやっていたりね、各学校同士、その質問内容を聞いて、学校同士から、また、高校生から高校生に質問していただくと、違った学校からその内容はどうなんですかとか、もう少しこういう風に深掘りしたほうがいいんじゃないんですか、っていう、そんな高校生同士のアドバイスなんかもあって、かなり充実した事前交流会になったと思っています。

(質問) 各学校で事前交流会をやったのではなくて、全体でやったっていう。

(副議長) ここへ集まってやったんですね。

(質問) ここでやったんですね。わかりました。

○インターハイ総合開会式について

(質問) 昨日から3日間、皇太子殿下に来県いただいて、インターハイの観戦をしていただきましたけども、あの、随行された議長として、所感如何でしょうか。3日間の。

(議長) 感想でよろしいですか。

(質問) はい。

(議長) あの、3日間ご承知のようにインターハイの総合開会式に皇太子殿下もお越しをいただき、知事と一緒に随行をさせていただきました。その間、やはり皇太子殿下として、本当に多くの高校生、あるいは職員はじめ県民の皆様方に温かく丁寧に接していただいたというのは、とても印象的に残っておるところでございます。また、あのインターハイの総合開会式におきましても、高校生中心に、本当に準備企画から関わっていただいた中で、成功にスタートを、総合開会式でございますので、切らしていただけたのかな、という風に感じております。さらには、皇太子殿下におかれましても、すごく総合開会式始め、3日間の対応について、好評をいただけたのかな、という言葉もいただいております、大変貴重な経験をさしていただいたと思っております。

(質問) 会話をされた中で印象的だったことはありますか、議長として。

(議長) はい、あの、ポッチャの記事が出ておりましたが、昨日の体験の中で、急遽あの、子どもが殿下にポッチャの玉を投げただけであればという要望された中で、すんなり、何の違和感もなく、周りの人が少し慌ててみえましたが、皇太子殿下は気さくに対応され、体験をいただけたということで、非常に子ども達も喜んでみえたな、というのは感じさせていただいて、そういった、本当に、殿下の日頃の温かいお気持ちがそういったところにも表れておったのかなというのを感じさせていただいたところであります。

〇LGBT 対応について

(質問) すいません、あの、えっと、自民党の女性議員がですね、国会議員がですね、性的少数者は生産性がないといったような発言をしてちょっと問題になって、自民党が昨日処分するという事案があったんですけども、それについてまずどう思われるかということと、なぜそれを聞くかということ、政府はあんまり、今の少なくとも与党はあまりこの問題に対して積極的ではない中で、むしろ地方において様々な制度の中で性的少数者への配慮ということがなされている事例が三重県内含めてあると思うんですけども、そういったこの政策は割と地方の方で進んでいる政策だという風に思うので、三重県議会としては何かこういった面でできることがあるとお考えでしょうか。

(議長) あの、杉田議員の発言ということですか。

(質問) はい。

(議長) はい。三重県議会といたしましては、平成28年の6月に、性的少数者に対する差別の解消と、共生社会を実現するための法整備を求める意見書を全会一致で採択をさせていただいているところでございます。まあ、基本的には、そういった考え方に基づいて、性的少数者に寄り添っていきたいと考えておるところでございます。

(質問) 何か具体的な形にはなるんでしょうか。何か、まあ、意見書を出すだけではなくて、県議会として何か具体的にされるようなことはあるんでしょうか。

(議長) えっと、今少し動きが若干ございまして、まあ、これから対応してい

く形になろうかと思いますが、まあ、三重県議会として先導してということではなく、そういう意見が上がってくるのであれば、またそれも取りまとめも諮っていききたいとは思っておるところであります。

(質問) ちょっと仰ってる意味がよくわからないんですけども。

(議長) 議会として、議長として能動的に取り組みをしていくということではなく、議員間の中でそういう意見が上がってくるのであれば取りまとめもしていきたいなと思っています。

(質問) わかりました。

(質問) 動きがあるというのは、県議会内で意見書を出すとか、そういう動きがあるということですか。

(議長) まだ具体的にはちょっと聞いておりませんが、そのような動きがあるやに漏れ聞いておりますので、正式には私もまだ聞いていない状況であります。

(質問) そういうのが正式に上がってくれば、議長として取りまとめていくということですか。

(議長) 議員としてそういう求められるものがあるのならば、議会としてもそれは整理していかなければいけませんし、調整もしていきたいと思っています。

○旅費について

(質問) 議員さんの視察とかの際の宿泊費なんですけど、これは費用については、どういった形で支出されるものになっているんですかね。

(事務局) 細かい資料は後で出しますが、基本的には議員の費用弁償ということで職員の旅費条例を引っ張ってきて、職員の例によるという形で規定されているところがございます。ただ、定額でされるもの、実費でされるものいろいろありますので、それはまた細かい資料はお渡ししないといけないと思いますけれども。

(質問) その中で定額の部分があると思うんですよ。一泊いくらとかか決まっている、これは職員も労組の交渉があったんですけど、基本的には宿泊費であれば泊まった金額と同じ金額で実費精算されるものなんだろうなという感覚

はこちらとしては持ってしまいうんですけど、それが定額で支払われているという状況もあるということについて、議長如何ですか。

（議長）今そういったものも含めながら議会経費の削減という中で、プロジェクトチームを立ち上げていただいています。当然、報酬も政務調査活動費もそういった旅費も含めながら、さらには全体の議会経費の中で削減できるものがないかという検討をまさに今、進めていただいているところでございまして、そういった中で、十分、検討していただけるものだと期待をしているところがあります。

（質問）先ほど私が申し上げました宿泊費の実費精算についてもそちらで検討してもらえenと思いますか。

（議長）結果はどうなるかわからないですが、検討していただける対象には当然入って参りますので、どういう形でどう検討していただくのか、これからプロジェクトの中でお任せしておるところでございますので、そういうのも含めながら検討してもらえenように期待をしておるところであります。

（質問）議長個人としては、ご感想如何ですか。それについてはどう進めたいというお考えはありますか。

（議長）いろいろと考え方もありまして執行部としてもいろいろと旅費の見直しも検討していただいておりますやに聞いておりました、プロジェクトチームで検討していただいておりますので、敢えて今日のコメントは控えさせていただきますし、検討を進めていただけるようお願いをまたこれからはもしていきたいなと思っております。

（ 以 上 ） 10時54分 終了